

七福神

恵比寿 (日本)

古くは「大漁追福」の**漁業の神**である。時代と共に**福の神**として「**商売繁盛**」や「**五穀豊穡**」をもたらす、商業や農業の神となった。唯一日本由来の神様。

大黒天 (インド)

インドの**ヒンドゥー教のシヴァ神の化身マハーカーラ神**。日本古来の大国主命の習合。大黒柱と現されるように食物・財福を司る神となった。

毘沙門天 (インド)

元はインドの**ヒンドゥー教のクベーラ神**。仏教に取り入れられ日本では毘沙門天（ヴァイシュラヴァナ）と呼ばれる。

弁才天 (弁財天) (インド)

七福神の中の紅一点で元はインドの**ヒンドゥー教の女神**であるサラスヴァティー神。七福神の一柱としては「弁財天」と表記されることが多い。

福祿寿 (中国)

道教の宋の道士天南星、または、道教の神で**南極星**の化身の**南極老人**。寿老人と同一神とも。

寿老人 (中国)

道教の神で**南極星**の化身の**南極老人**。

布袋 (中国)

唐の末期の**明州**（現在の**中国浙江省寧波市**）に実在したといわれる**仏教の僧**。

四天王

増長天 - 南瞻部洲を守護する。鳩槃荼、薜荔多を眷属とする

持国天 - 東勝神洲を守護する。乾闥婆、毘舍遮を眷属とする。

多聞天 - 北俱盧洲を守護する。夜叉、羅刹を眷属とする。

広目天 - 西牛貨洲を守護する。龍神、毘舍闍を眷属とする。

毘沙門天とも呼ぶ。原語の意識が**多聞天**、音訳が**毘沙門天**。

多聞天は独尊の場合は**毘沙門天**と言います。四天王の一つとしては**多聞天**と言います。須弥山（しゅみせん）なら四天王が東南西北の門の守護神でいいですが、須弥壇での現実には、**持国天は東南、増長天は西南、広目天は西北、多聞天は東北**の方向を守っております。それは須弥壇の**南に増長天**を安置しますと本尊の真ん前となりそれでは不都合となるからでしょう。

上から見て 45 度時計方向に回転（正面では不動明王や本堂の前方になる為）

上杉謙信と毘沙門天

毘沙門天（別名：多聞天）は、仏法で世界の中心にあるとされる須弥山の北方を守護する神で、**財宝・子宝・戦勝**の加護があるとされた。もちろん上杉謙信は、三番目に挙げた

「**戦勝の加護**」がある神として、すなわち**武神**として毘沙門天を信仰したのである。

上杉謙信の毘沙門天信仰への入れ込みようは大変なもので、自らの居城・**春日山城**に、わざわざ“**毘沙門丸**”と呼ばれる区域を設け、そこに**毘沙門堂**を置き、

毘沙門天画像を祀ったといわれています。

自分は毘沙門天の生まれ変わりだと信じていました。戦の神である毘沙門天を自分の前世だと----- 戦国時代の最強の武将である？